



Since  
1999

www.cargoodsmagazine.co.jp

# Car Goods Magazine

## 人気の20ジャンル、買いのポイントを探る!



Fragrance Diffuser



Radar Detector



Air Freshener



Car Navigation System



Drive Recorder



Digital Gadget



TV Kit



Personal Navigation Device



Security System



Display Audio

カーエレクトロニクス マーケット・リサーチ

= 2022-23年版 =

【特集】

# 電気モノ 導入指南



Tire Pressure Monitoring System



Mobile Starter



Electronic Control Suspension



Drive Camera



AV Peripheral equipment



Charging Device



Throttle Controller



Portable Power



Light Emitting Diode



Freezer



足元から見直す!

〔提案〕 Car LIFE 靴専科



# 言魂

直々に聞く、  
トップの話。

いよいよ到来する今年の冬に向け、業界団体の垣根を越えて強いメッセージが発せられている。安全に関わる話でもあるばかりか、法令遵守の観点からも、そのメッセージは緊急性を増す。今こそ、近頃よく見掛けるあの啓発ポスターの真意に、じっくりと耳を傾けたい。

第8回



降雪地域ではすでに冬備えを終えている頃合いながら、非降雪地域では、特に備えなく冬を迎える習慣がまだ根強い。近年、これが社会的な問題にもなっている。雪が降り積もっているのにも関わらず、夏用タイヤのままが発売し、立ち往生の末に渋滞や事故を招くケースは、昨今強く禁忌される。かねてから、このリスクを提唱し続けてきたのが、日本自動車タイヤ協会（JATMA）だ。

「実は10年以上前から、夏タイヤのままでは雪が降った時にどれだけ危険か、あるいは周りにもどれだけ迷惑をかけるか、そしてそもそも法令違反ですよと啓発してまいりました。ただ、我々の周知不足の部分もあると思うんですけれども、なかなかこれで十分とはいかなかったのも事実です（JATMA・山石会長）」。

それがここに来て、より喫緊の課題として重視せざるを得なくなってきた。「昨年一昨年と、ラニーニャ現象の影響もあって関東でも雪に見舞われるケースが続きました。そして、気象庁の予報によりますと今冬もラニーニャ現象

## 業界団体トップが発する

### 冬道、今そこにある危機



日本自動車タイヤ協会  
(JATMA)  
会長 山石昌孝氏

「あらかじめ今年のうちから冬タイヤに交換していただければ年末年始も安心できる、そう考えております」

象が続くと言われています。特に都市圏では、一度どかっと雪が降ると、JAFや警察・消防に対する出動要請が倍以上、場合によっては10倍にも達するというデータもあります。だからこそ、特に首都圏に関しては、より重点的に周知を計っていきたくと考えています（JATMA・山石会長）」。

今年の夏は、例年以上に異例の天候が続いた。地球温暖化の言葉は、広く認知されるキーワードでもある。

「温暖化というと、冬にはあまり関係ないじゃないかという声もありますが、温暖化によって気候自体が激しく変化します。実際に、異常ともいえる気象が世界中でみられていますね（JATMA・山石会長）」。

まさに、時は待たなし。非降雪地域でも、今にもそういう天候に見舞われてもおかしくない。

「だからこそ、他の団体さんにも協力を依頼して、啓発ポスターやチラシを今まで以上に配ってききました。少しでも多くの方の目に触れるように、パソコン向けだった我々のホームページもスマートフォンで見られるようにし、



「自分のクルマを常に見ていただきたい  
保守管理の部分でも  
私たちの業界でその価値を上げていきたい」

冬タイヤに対する重要性をアピールしています（JATMA・山石会長）。

その声掛けに応えた団体のひとつに、洗車の日でおなじみの自動車用品小売業協会（APARA）がある。同団体は、洗車と並び、最近ではタイヤ点検の啓発にも重点的に取り組んできた。

「洗車することによって、いろんなきつかけづくりになります。それは洗車用品を売りたいためだけでなく、クルマがどんどん進化する上で適切にチェックしていかないと駄目だよねというメッセージでもありました。例えばリーダー。ここが汚れているとちゃんと動かない。

そこからもう一歩進んで、水、減ってませんか？ 空気入ってますか？ 適切なタイヤがついてますか？と、広がりをもって提唱できればと考えていたところでした（APARA・小林会長）。

最新の技術装備を備えたクルマでも、それに頼り切りというわけにはいかない。

「その装備が本当にちゃんと動きますかという視点が重要だと思います。冬道では、いくら装備が機能しても、夏タイヤだったら止まりませんよ。クルマはどんどん進化しますけれど、それを100%生かすための整備が大事

だと思っています（APARA・小林会長）。

普段の意識は希薄でも、いざ大雪に見舞われると、そのムードは一変する。

「困ってるなかで申し訳ないですが、もう1時間でも2時間でも、店の前で並んでいたかざるをえません。そこに買う理由があれば、絶対買われるんですよ。明確な理由をやつぱり伝え切れていないんでしょうね。そんなふうには見えています（APARA・小林会長）。

かのドライブレコーダーも、衝撃的な映像ニュースを契機に、自衛のためにと拡販が進んだ。そのドライレコの普及が進んだ今、あらゆる道路に監視の目は光つているとも言える。周囲に迷惑を掛けることにもなる冬道における夏タイヤでのスタックは、ルール逸脱車の事例として映像にも残ることになる。

あらためて確認すべきなのは、夏タイヤでの雪道走行は法令違反ということだ。道路交通規則に、しかと滑り止めルールは存在する。交通違反点数の減点こそないものの、普通車では6000円の反則金が課せられる。

「私自身、一時期ドイツにおりまして、この国ではより厳しい制度が確立されていました。指定期間に事故を起こしたら、自賠責保険の負担が違うし、反則金も違ってきます（JATMA・山

石会長）。

ドイツでは、冬タイヤ気温に達した場合に装着が明確に義務付けられ、違反の場合は運転者には罰金と減点を課せられるほか、所有車にその責が及ぶ場合もある。そればかりか、重大な過失を生む場合、保険適用も大幅に減額されたりカバー条件の取り消しにまで及ぶなど、強いペナルティが発生する。多くの自由と引き換えに、強い責務も存在するのが自動車大国でもあるわけだ。

「残念ながら、法令違反と言われて響かない人も一定数はいるかもしれません。少しぐらいの雪であれば大丈夫だという考えですね。ただ、コロナ関係で自家用車を使う方が増えていますし、旅割等でも自家用車が使われるケースが多くなると思います。だからこそ、ここであらためて周知徹底を計りたいのです（JATMA・山石会長）。

冬道の一つの現象で見れば、そのリスクは日本ほど大きいとも言える。「日本の雪って湿気が多いんですね。翌朝には凍ってアイスバーンになってしまいます。他の国とは気象条件が大きく違う傾向にあります。だからこそ、日本の気象条件にあったタイヤを装着する必要性が高いと思います（JATMA・山石会長）。